株主メモ

■事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
■定時株主総会	毎年6月
■基準日	定時株主総会　3月31日 期末配当　3月31日 中間配当　9月30日 その他必要がある場合、あらかじめ公告する一定の日
■株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
■同連絡先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部 TEL　0120-782-031（フリーダイヤル）
■公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL　http://www.teikokudenki.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

（ご注意）

1.株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。株主名簿管理人（三井住友信託銀行）ではお取扱いできませんのでご注意ください。

2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関（三井住友信託銀行）にお問合せください。

3.未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。

【特別口座の口座管理機関の変更に関するご案内】
平成28年6月30日をもって、特別口座の口座管理機関を三菱UFJ信託銀行から三井住友信託銀行に変更いたしました。

株式会社 帝国電機製作所
〒679-4395 兵庫県たつの市新宮町平野60番地
TEL 0791-75-0411（代表）

Business Report

株主の皆様へ

第113期 中間報告書

平成28年4月1日から平成28年9月30日まで

TEIKOKU

株式会社 帝国電機製作所

[証券コード：6333]

「高付加価値製品への挑戦」に向けて、ものづくりの基盤を強化してまいります。

代表取締役社長　宮地 國雄

Q 当第２四半期連結累計期間の業績についてお聞かせください。

A 当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高90億76百万円（前年同期比8.1%減）、営業利益7億44百万円（同23.7%減）、経常利益4億87百万円（同53.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益3億47百万円（同47.9%減）となりました。

売上については、主力のポンプ事業は、国内市場については維持・更新等による底堅い設備投資の需要に伴い増加したものの、海外市場については、中国経済の減速に加え、円高による為替換算の影響等もあり低調に推移しました。さらに、電子部品事業においても、熊本地震の影響等により、低調に推移しました。

また利益面については、電子部品事業は、粗利率の改善並びに販売費及び一般管理費の減少により、前年同期比で増益となったものの、ポンプ事業は、売上の減少や円高の進行による為替差損の発生等から、前年同期比で減益となりました。

これらにより、当第2四半期連結累計期間の業績は、期初計画を達成することはできず、低調な結果となりました。

Q さらなる成長に向けてのポイントを教えてください。

A 当社は経営戦略のひとつとして「高付加価値製品への挑戦」を掲げております。

そのためには、お客様の高度な要求を的確に形にするための高い技術力と、それを実際の製品につなげるための高い製造技術及び生産体制が不可欠となります。また、国や地域によって異なる多様な規格への対応も必要となってきます。

当社には長年にわたるお客様の要求に合わせたものづくりの中で培ってきた独自のノウハウがあります。また、各種規格へ幅広く対応できるよう積極的に取り組みを進めております。また、今年6月より稼働した新工場により、大型ポンプや多数の付属品等を備えた高機能ポンプ等についても、従来よりも格段に効率よく生産できる体制を整えております。

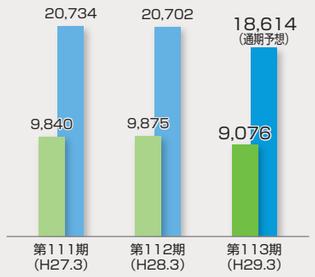
今後、これらをベースとして他社には真似できないオンリーワンの製品を提供していくことで、収益率を高めてまいります。

Q 今後の見通しを簡単に教えてください。

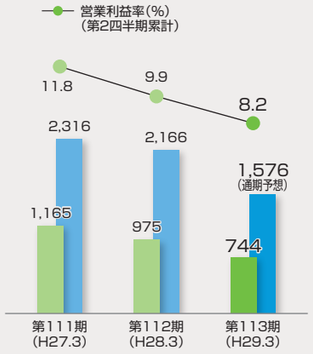
A 足下の世界経済については、アメリカでは依然として設備投資に対する慎重姿勢が続いており、また中国では過剰設備問題が解消されていないことから民間企業の設備投資のスローダウンが続いている等、当社を取り巻く環境は厳しさを増しています。このような状況に加え、円高の進行に伴って想定為替レートの見直しを行ったこと等から、今期の通期業績予想を下方修正させていただきました。

しかし、国内市場における受注は、設備更新需要等により堅調に推移しており、海外においても、アメリカ市場では、冷凍機向けポンプが好調に推移しているほか、メカニカルシールポンプからの置換も着実に増加しております。さらに、2018年ごろからシェールガスを原料としたエチレンプラントの稼働が予想され、さらなる需要拡大が期待できます。また、中国市場でも受注等の動向に少しずつ回復の兆しが出てきております。これらのことから、中期的な見通しとしては、海外市場についても復調が期待できるものと考えております。

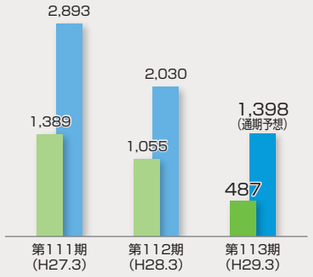
■ 売上高



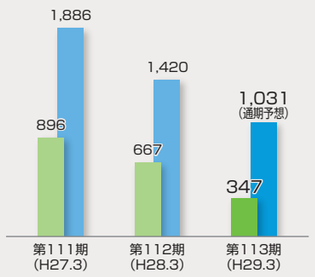
■ 営業利益／営業利益率



■ 経常利益



■ 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



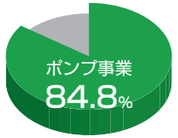
第2四半期累計　通期　（単位：百万円）

（注）・在外子会社の収益及び費用は、従来、それぞれの決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、当第1四半期連結会計期間より期中平均相場により円貨に換算する方法に変更しております。なお、前連結会計年度までにつきましても遡及適用した金額を記載しております。
・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

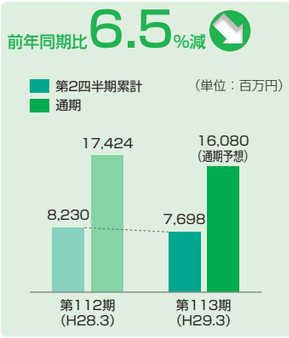
セグメント別事業の概況

ポンプ事業

売上高構成比



売上高

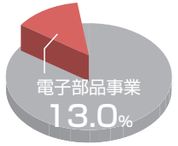


ポンプ事業は、国内においては維持・更新等による底堅い設備投資の需要等から、ケミカル機器モータポンプ、メンテナンス関連等が増加しました。海外においては、中国市場ではケミカル機器モータポンプ、電力関連機器モータポンプ等が減少し、米国市場ではケミカル機器モータポンプ、冷凍機・空調機器モータポンプ等が増加しました。

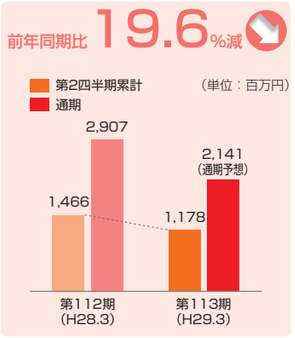
その結果、売上高は76億98百万円（前年同期比6.5%減）、連結売上高に占める割合は84.8%となりました。また、営業利益は、売上の減少並びに粗利率の悪化により、6億85百万円（同26.7%減）となりました。

電子部品事業

売上高構成比



売上高

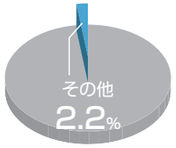


電子部品事業は、熊本地震の影響等により、売上高11億78百万円（前年同期比19.6%減）、連結売上高に占める割合は13.0%となりました。

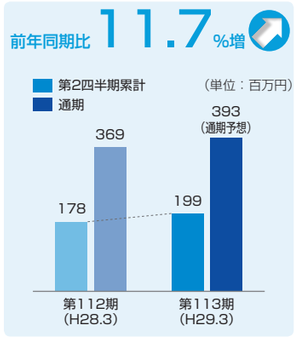
また、営業利益は、粗利率の改善並びに販売費及び一般管理費の減少により45百万円（同45.3%増）となりました。

その他

売上高構成比



売上高



その他は、売上高は1億99百万円（前年同期比11.7%増）、連結売上高に占める割合は2.2%となりました。

また、営業利益は13百万円（同36.7%増）となりました。

市場特集 アメリカにおける冷凍機ポンプ

アメリカでは1960年代から冷凍食品が普及しはじめ、冷凍技術の向上に伴い、大型冷蔵倉庫を持つ物流センターが増えていきました。今日では多くの小売業者が多種多様な冷凍食品を扱うようになり、冷凍設備の需要はますます増加傾向にあります。

冷凍設備ではアンモニア、代替フロン、液化炭酸ガス等が冷媒に使用され、その取扱いに当社の冷凍機ポンプが使用されています。かつてはメカニカルシールを使ったポンプが主に使用されていましたが、メカニカルシール部から微量の液体が漏れてしまうため、既存冷凍設備のユーザーの多くは、設備の機能維持、人体への影響、そして環境問題の点からも非常に不満を持たれていました。

当社のキャンドモータポンプはポンプとモータを一体化し、取扱う液体が全く漏れないことが特長です。環境汚染防止等の視点からこの特長が大きく支持され、現在では20社を超える冷凍設備メーカー様に採用していただくようになっております。

＜当社ポンプが使用されている冷凍設備＞

Topics POLAR PROJECT

当社の冷凍機ポンプは、従来は本社で生産し、アメリカへ輸送していたため、納期対応が大きな課題となっていました。その対策として生産方式を見直し、本社でパーツを製造して当社子会社であるTEIKOKU USA INC.でパーツをストックしつつ、お客様のニーズに合わせて組み立てて納品する「ノックダウン生産方式」に変更すべく、2015年8月にTEIKOKU USA INC.で「POLAR PROJECT」を発足いたしました。

POLARは「北極」という意味で、冷凍機に使用されるため「冷たい」という意味と、当社グループを地球の頂点（北極）に連れて行くとの意味合いも込められています。

工場の拡張、設備の導入・更新、生産ラインの見直し等が完了し、2016年5月からノックダウン生産がスタートしました。これにより大幅な納期短縮が可能となり、お客様の満足度が飛躍的に上がりました。

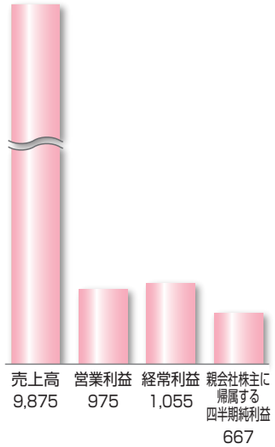
今後は新規の冷凍設備向けだけでなく、短納期の強みを活かし、メカニカルシールポンプの置換需要も取り込むことで、さらなる受注獲得を目指します。

四半期連結財務諸表

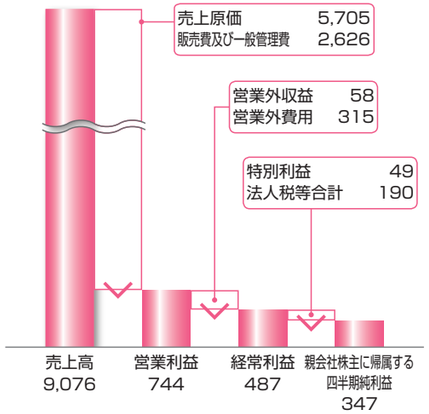
四半期連結損益計算書

（単位：百万円）

前第2四半期累計（平成27年4月1日～平成27年9月30日）



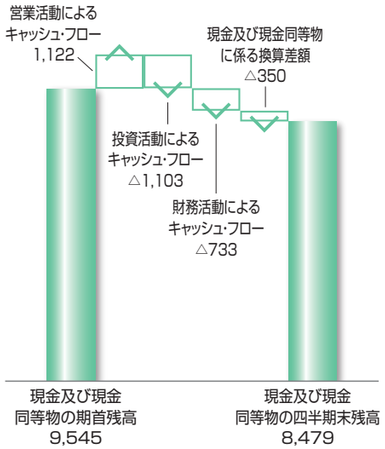
当第2四半期累計（平成28年4月1日～平成28年9月30日）



四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

当第2四半期累計（平成28年4月1日～平成28年9月30日）



四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

科　目	前期末（平成28年3月31日現在）	当第2四半期末（平成28年9月30日現在）
資産の部		
流動資産	21,957	19,704
固定資産	9,190	10,237
有形固定資産	6,836	7,964
無形固定資産	464	441
投資その他の資産	1,889	1,831
資産合計	31,148	29,942

科　目	前期末（平成28年3月31日現在）	当第2四半期末（平成28年9月30日現在）
負債の部		
流動負債	5,468	4,894
固定負債	1,768	1,704
負債合計	7,237	6,598
純資産の部		
株主資本	22,632	22,836
その他の包括利益累計額	1,278	507
純資産合計	23,910	23,343
負債純資産合計	31,148	29,942

（注）在外子会社の収益及び費用は、従来、それぞれの決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、当第1四半期連結会計期間より期中平均相場により円貨に換算する方法に変更しております。なお、前連結会計年度までにつきましても遡及適用した金額を記載しております。

会社情報／株式情報

会社概要（平成28年9月30日現在）

社　　名	株式会社帝国電機製作所 TEIKOKU ELECTRIC MFG. CO., LTD.
設　　立	昭和14年 9月12日
資 本 金	31億1,811万8,450円
従 業 員 数	連結 1,205名　単体 327名
本　　社	〒679-4395 兵庫県たつの市新宮町平野60番地 Tel. 0791-75-0411（代表）
ホームページ	http://www.teikokudenki.co.jp/

役員（平成28年9月30日現在）

代表取締役社長　宮　地　國　雄
常務取締役　中　村　嘉　治
取　締　役　大　川　貴　広
取　締　役　白　石　邦　記
取　締　役　舟　橋　正　晴
取　締　役　頃　安　義　弘
取締役(監査等委員)　田　中　久　継
取締役(監査等委員)　曾　我　　巖
取締役(監査等委員)　林　　晃　史

(注)・田中久継氏は常勤監査等委員であります。
・曾我　巖及び林　晃史の両氏は社外取締役であります。

グループ会社（平成28年9月30日現在）

国内子会社
- 株式会社協和電機製作所
- 上月電装株式会社
- 株式会社帝伸製作所
- 株式会社平福電機製作所
- 株式会社帝和エンジニアリング

海外子会社
- TEIKOKU USA INC.
- 大連帝国キャンドモータポンプ有限公司
  - ＊台湾帝国ポンプ有限公司
  - ＊無錫大帝キャンドモータポンプ修理有限公司
  - ＊済南大帝キャンドモータポンプ修理有限公司
  - ＊成都大帝キャンドモータポンプ修理有限公司
  - ＊TEIKOKU KOREA TECHNICAL SERVICE CO.,LTD.
- TEIKOKU SOUTH ASIA PTE LTD.
- TEIKOKU ELECTRIC GmbH
- TEIKOKU KOREA CO.,LTD.

(注)＊は大連帝国キャンドモータポンプ有限公司の子会社であります。

株式の状況（平成28年9月30日現在）

発行可能株式総数	69,200,000株
発行済株式の総数	20,400,138株
株　主　数	5,314名

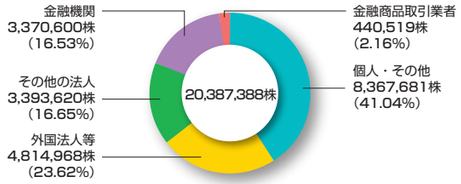
大株主（上位10名）

株主名	持株数	持株比率
三菱電機株式会社	2,286,400株	11.21%
KBL EPB S.A. 107704	1,184,051株	5.81%
INTERTRUST TRUSTEES(CAYMAN)LIMITED SOLELY IN ITS CAPACITY AS TRUSTEE OF JAPAN-UP	800,700株	3.93%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	775,000株	3.80%
刈田耕太郎	527,444株	2.59%
徳永耕造	505,400株	2.48%
帝国電機取引先持株会	445,300株	2.18%
江頭憲治郎	419,952株	2.06%
株式会社三井住友銀行	410,000株	2.01%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口9）	369,700株	1.81%

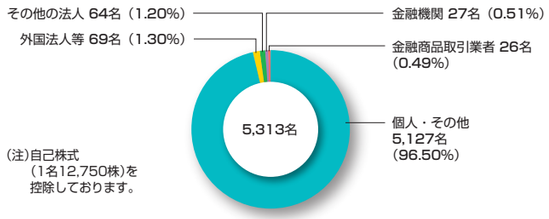
（注）持株比率は自己株式（12,750株）を控除して計算しております。

株式分布状況

所有者別株式分布状況



所有者別株主分布状況



(注)自己株式
(1名12,750株)を
控除しております。